

2015年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	生物環境化学科						
科目名	バイオセンシング						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	前期		
必修・選択の別	選択必修科目						
担当者	大貫 宏一郎						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酵素の基質特異性は何に由来するか説明できる。</li> <li>・神経興奮など生体における情報伝達システムを描ける。</li> <li>・バイオセンサにおける信号変換方法を列挙できる。</li> <li>・バイオセンサの長所と短所を説明できる。</li> </ul>						
日程と内容	第1回：導入講義、授業の進め方と概要の説明、成績評価法など。 第2回：酵素の触媒能力 第3回：酵素タンパク質の立体構造 第4回：酵素の基質特異性 第5回：酵素の諸性質（最適pH、最適温度など） 第6回：酵素反応速度論 第7回：酵素に関する総括 第8回：生物の感覚、神経細胞 第9回：神経興奮、跳躍伝導 第10回：味覚の原理 第11回：嗅覚の原理 第12回：その他の化学感覚 第13回：視覚の原理 第14回：聴覚や触覚の原理 第15回：バイオセンサーに関する総括 定期試験						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験	30%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	予定していた項目はすべて実施して、概ね達成できたと考えている。						
反省点	昨年度内容を多少高度にして総合点が理解度が8.6→8.3と0.3ポイント低下したので、今年度はよりわかりやすい授業を目指したが、もう少し高度な内容にすべきだと考えた。						
来年度の計画	項目自体は同様として、内容の充実を図りたいと考えている。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合が8.7と昨年度より0.4ポイント、また授業内容の理解度も0.3ポイント上昇し、良いことと考えられるが、平易であったためであるとも考えられる。しかし、昨年度は難易度を上げて理解度が低下したこともあるので、高度な内容をなるべく維持しつつ、わかりやすく満足度の高まる内容にしたいと考えた。自由記述では、「分かりやすい」「楽しい」が多くみられ、内容を理解してもらい、興味を持ってもらえたことは、成功であったと感じた。各項目について、4.3程度の項目が多く、来年度も同等以上クオリティを保っていきたいと考えている。						
履修登録者数	61名	定期試験 受験者数	59名	合格者数	59名	合格率	100%